ごうちゃんねる（GO-CHANNEL）　2026/01/16

アメリカモンロー主義の源流
孤立主義を生んだ精神的土壌
バイブルに背中を押された移民たち

東住吉キリスト集会　高原 剛一郎 氏

✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡---✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡

お元気ですか。高原剛一郎です。以前の動画で、トランプ大統領がドンロー主義を唱えていることをお話ししました。ドンロ―主義はモンロー主義のトランプ版です。トランプ大統領は、何でも自分の名前を付けるのが好きな大統領ですね。

モンロー主義とは何か。ヨーロッパ／アメリカの外の世界に対して、「あんたたちがすることに、私たちは一々口出しししません。その代わり、ヨーロッパ列強もアメリカ南北大陸に植民地を持ったり、ちょっかい出すのはやめてくださいね。もし私たちの中南米に手出しするなら、ただじゃ済みませんよ。私たちは南北アメリカ・西半球のところに閉じこもります」という考え方です。
これは、アメリカファーストの考え方と通じるんじゃないですか？

モンロー主義は第５代目のモンロー大統領が提唱したんですが、この考え方がアメリカ国民に大きく受け入れられていった一つの要因に、建国の経緯があるんです。
建国の経緯は、聖書を読まない限り絶対に分かりません。
実はアメリカ建国の中に、聖書の影響がものすごく深く入ってるんですね。
今日はその部分についてお話しします。

私は２年ほど前に１か月ほど掛けて、アメリカ大陸を西海岸から東海岸まで（観光じゃないですよ）講演旅行しました。３日に１回くらい休みもらったかな。
ずっと講演しながら行ったんですが、いやぁデカい。アメリカはただ面積がデカいだけじゃなくて、同じ国ですかっていうくらい、州によって違いますよね。
50 の国が寄せ集まっている、まさに合衆国。
カリフォルニアのハリウッドのアメリカもあれば、ワシントンの政治のアメリカもあれば、カナダに近い寒いアメリカもあれば、バイブルベルトと呼ばれるアメリカもあるんですね。

バイブル・ベルトのおおよその広がり（赤い部分）

「バイブルベルトのおおよその広がり（赤い部分）」
これがトランプ大統領の牙城です。いわゆる福音派と言われる人たちがたくさん集まっている州で、選挙の時に共和党岩盤支持層と言われる州なんですね。

アメリカを語る際にいろんな報道がありますが、忘れてならないファクターは聖書の役割です。だけど日本では、聖書の役割という視点があまりにも欠けているのではないかな。それで、特にモンロー主義を考えていく上で、聖書が果たした役割は大きいということについてお話しします。

最初はメイフラワー号に乗って、イギリスから移民が行くんですね。

メイフラワー号

はじめはメイフラワー号と、一回り小さいスピードウェル号の２隻で、イギリスを出発してアメリカに行く予定だったんですが、スピードウェル号に穴が開いて、修理しても修理しても穴が開くんですよ。今はいろんな研究者が、船員の中でアメリカに行きたくない奴が開けたんじゃないかとか、いろんな説がありますが、結局はメイフラワー号だけでアメリカに渡るんです。

メイフラワー号に乗っていたのは誰か。いわゆるピルグリム・ファザーズ／ピューリタンの人たちが、アメリカに移ろうとしたんです。
では、ピューリタンとは何か。ひと口にキリスト教といっても、プロテスタント・カトリック／西方教会・正教（オーソドックス）／ギリシア正教／東方教会などいろいろあります。

プロテスタントはほかの２つの教派と比べて、聖書をずば抜けて重んじる。
聖書を何よりも重んじる。聖書のみ。これを主張しました。
プロテスタントが誕生する前まで、ルターが宗教改革するまで、ヨーロッパの一般の人たちは聖書を読んだことがなかったんです。たとえ聖書があったとしても、読めませんでした。ラテン語で翻訳されている聖書しかなかったからです。
新約聖書はギリシア語。旧約聖書はヘブライ語。両方ともラテン語に翻訳されているんですが、ラテン語なんていう専門的な言語は、特別な教育を受けている人でないと読めないんですよ。

そもそも聖書は手に入らないものでした。手に入ったとしても読むことができない。
それを民間人の言葉で読めるようにしたのがルターです。
ドイツ語に翻訳して、しかも、ちょうど活版印刷技術が発明されたので、一般人が自分の言葉で聖書を読めるようにしたんですね。
これがプロテスタンティズムになっていきました。

今までの伝統／カトリックの伝統に抗っていくためには、カトリックよりも前にあった原典を使うしかなかったんですね。原典の聖書が何と言っているのか。
「伝統でこんな風にやってきました」「いや、それは習慣でしょ。そうじゃなくて、聖書そのものは何と言ってるんですか？」ということで始まったのがプロテスタントということになっています。

プロテスタンティズムの流れの一つに、ピューリタンと言われる人たちがいました。
アメリカに渡ったこのクリスチャンたちはピューリタンです。
ピューリタンはプロテスタントの中でもさらに聖書を徹底的に重視した人たちで、ものの考え方から生き方まで全て、聖書に基づいて行おうとしました。
だから、彼らの所持品は聖書１冊なんですよ。
いろんなフロンティアの開拓などでもそうですが、どこの家でも、本があるとした

らそれは聖書だけ。当時、本は非常に高価なものでした。でも、どんなに高価でも、聖書だけは家に置いておきたい。それは積ん読じゃないんです。読むんです。

アブラハム･リンカーンもそうです。彼は正式な学校教育は１年しか受けてません。だけど、最終的に弁護士になります。読み書きをどうやって覚えたのか。
新しいお母さんが読み書きを教えてくれたんですが、そのテキストはイングリッシュテキストブックじゃないんですよ。バイブルなんですよ。
聖書で、アルファベットから文章から文法から何から、ずっと勉強していった。
リンカーンの演説が格調高く威厳があったのは、幼い時にビシャっと入った聖書の文言や言い回しが、自然に演説の中に出て来たからです。聖書的な香りがしたんですね。

聖書は初期のアメリカ移民に大きな影響を与えていましたが、そもそも、なぜ生まれ育った国を捨てて、見たこともない国に移り住んだのか。

イングランド国王兼スコットランド国王のジェームズ１世。
彼の考え方は王権神授説。「神が王になるために、神は私にその権威を授けた。王は国家のトップであり、クリスチャンの共同体である教会のトップでもある。教会の天的な、天国における最高指導者はキリスト。国王は、地上における教会のトップ、最高権威者である」と教えたんです。
キリストの権威の方が上なんですが、地上での教会のトップということで、イギリス国教会の守護者であり、最高指導者のポジションというタイトルがあるんですね。
これに、「ちょっと、それおかしいんじゃないですか？」

エペソ人への手紙１章 22 節
神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。

教会は建物のことではなく、クリスチャンの共同体です。
キリストを、かしらとして教会に与えられました。
教会のかしら／教会の最高指導者・最高権威者・最高責任者はキリストです。
人間じゃない。教団のだれそれさんじゃない。それぞれの教会のトップ／最高権威者はキリストです。

それに対して、「それはそうだが、地上においては私が権威者だ」ということで、二重基準になって来たんですね。だれが司教になるのか。司教じゃない人がして良いことといけないことを、ジェームズ１世が決める。

一般信徒が公的承認なしに聖書を教えるのは違法行為。実際に逮捕・投獄がありました。ジェームズ１世が亡くなって数年後、ジョン･バニヤンという人が国教会の司祭・司教・牧師の資格を持ってないにも拘わらず、いいメッセージをしたんです。

しかし、ライセンスがないのに聖書の話をしたので投獄されました。
何年投獄されたと思います？12 年ですよ。

そして、全ての国民は国教会に行かなければならない。国教会の認可のない集まりをしてはならない。国教会を通さない聖書解釈をしてはならない。秘密の集会を持ったり、メッセージをした場合は逮捕・罰金。国教会の礼拝を欠席したら罰金。
「その考え方や解釈はおかしいと思うんで、自分たちで集会持ちます」は罰金。
ずっと欠席し続けたら罰金が累積して巨額になる。払えないので刑務所です。

日本でも、罰金払わなかったらどうなるかご存知ですか。
給料や預金・車・不動産が差し押さえられます。そんな財産が無い場合は、罰金 5000 円に付き一日に換算されて刑務所に行くんですよ。罰金刑は重いんですね。

そういうことで、長期投獄されることが出て来るんですね。
特にイギリスのクリスチャンで、「解釈そのものがおかしいですよ」と異議を唱えて反対するクリスチャンを分離派と言います。
国教会があるにも拘わらず、そこから分離するのは国家転覆の危険分子ということで、迫害の対象になっていったんですね。
彼らは国王を引きずり下ろせとか、扇動するようなことはしない。
ただ純然な聖書メッセージをすることだけでも、アウトなんです。
信仰的にまっすぐ生きて行こうとすればするほど、刑罰の対象となる。

「もうイギリスにいられない！」はじめはオランダに亡命する人たちがいましたが、オランダはやっぱりヨーロッパなんですね。
亡命した中の一人、ジョン･ロビンソンという人が提唱しました。
「ヨーロッパは古くから積み重ねてきた文明文化の中で、いろんなしがらみがある。本当に、まっさらでまっすぐに創造主キリストを信じて進んで行くことがもうダメ。新しい約束の地に行くべきだ」
この提唱に従って、旧大陸ヨーロッパを捨ててアメリカに渡って行ったんです。

スピードウェル号はオランダからイギリスに行って、イギリスで合流して 2 隻で行くはずでしたが、オランダを出港する時、ジョン･ロビンソンが旧約聖書からメッセージしました。それはエズラ記 8 章です。

エズラ記 8 章 21 節
私はそこ、アハワ川のほとりで断食を布告した。それは、私たちの神の前でへりくだり、私たちのために、私たちの子どもたちと、私たちのすべての持ち物のために、道中の無事を神に願い求めるためであった。

これはエズラが書いたんですが、どんな背景で書いたのか。
ユダヤ人の国はバビロンによって滅ぼされました。

これを書いた時は、滅ぼされて 130 年くらい経ってます。バビロンからペルシアに国が変わるんですが、130 年もそこにいたら、成功者になるユダヤ人もいっぱい出て来るんです。
「自分たちの神殿があるエルサレムに戻って、信仰の共同体を築こう」なんてことより、「そんな苦労をわざわざせんでも、出来上がっているシステムの中で生活できんねんから、ここでぬくぬくと生活したらいいやんか」と言う人たちがほとんど。

その中で、「神はユダヤ人の国を再現すると預言された。神の計画はユダヤ人が約束の地に戻ることで進むんだ」と、一部の人たちだけが、新しい神殿が出来たエルサレムに行こうとしました。
ちなみに、エズラたちが行く前に神殿再建は終わってます。その際に人員を調べたら、神殿に仕える祭司やレビ人がいないんですよ。これ、どういうこと？
祭司やレビ人自身が、「エルサレムに神殿があっても、ペルシアでぬくぬくと生活してる方が楽ちんでよろしいですわ」

「ユダヤ人の信仰はどこに行ったんだ！いつの間にこんなに堕落したのか！」と、ここで悔い改めてエルサレムに進んで行こうという時に、「我々はなんと生ぬるくなってしまったのか」ということで、断食を布告して、神の前にへりくだる。
そして、エルサレムで使う金や銀を持っているので、道中山賊に襲われたら一たまりもない。「ボディーガードなしで、あなたにより頼んで進んで行きます。助けてください」という場面なんですね。

聖書には、もういろんな箇所がありますよ。平安を祈る箇所や、トラブルから守られますようにと祈る箇所とかいっぱいある。にも拘らず、なぜロビンソンはこの箇所を選んだのか。ここに「なぜアメリカに行くのか」という動機づけがあるから。
彼は、ヨーロッパを堕落したバビロンやペルシアと見たんです。
そして、アメリカを約束の地エルサレムとみなしたんです。

「かつてユダヤ人たちが、出来上がった文明最先端国、技術が発達した裕福なところを切り捨て、信仰を求め追及していくためにエルサレムに渡って行ったように、私たちも、じゅくじゅくに腐っているこのヨーロッパを離れて、アメリカに行って、信仰の共同体を築き上げていくんだ！」
これがメイフラワー号の移民なんですよ。これが、スピードウェル号が出発する時に、ロビンソンが語ったメッセージなんですよ。

この人たちは、アメリカのことをニュー・エルサレムと呼びました。
私たちは今一般的に、ヨーロッパをオールド・ワールド、アメリカをニュー・ワールドという言葉で世界史を学びます。彼ら自身は、アメリカをニュー・エルサレムと呼んでいました。

そして、独立戦争が終わって最初の議会で、「聖書の国を造るんだから、英語／ヨーロッパで生まれた言語を国語にするなんて、ふさわしくないじゃないか。英語ではなく、ヘブライ語をアメリカの国語にしよう」という発議がなされてるんですよ。

だれが教えんねんという話になりますよね。結局そうならなかったんですが、そんなことがあったんですね。

ピューリタンの人たちは、「ヨーロッパは腐敗した教会で、政治権力と信仰が癒着している世界だ。私たちは神が与えたやり直しの地アメリカで、契約に基づく新しい社会を造るんだ！」
丘の上の町（City Upon a Hill）、キリストのことばに「丘の上の町は隠れることができません」とありますが、そのように、信仰のともしびを照らしていくことで世界のしるし／リーダーとなっていく。私たちは古いものから逃れてそこに行く！
彼らの手本はモーセでありエズラでした。約束の地に行くという物語の中に、自分たちの国を造って行ったんです。

モンロー主義は政治的な運動なので、直接聖書から出て来たものではありませんが、モンロー主義が受け入れられた精神的土壌はやっぱりあるんです。
「アメリカは旧世界のヨーロッパとは本質的に違うんだ。ヨーロッパは古い世界で、腐敗していて専制。アメリカは新しくて契約の世界、自由の世界。我々は別々の文明なんだ」という意識。
このイメージは、アメリカ建国の経緯の中から出て来ました。
世界は聖書でできている。アメリカは聖書で出来ている部分があるんです。
このことがあったので、モンロー主義が受け入れられていったんですね。

ピューリタンは、旧世界から離れて生きるために海を渡りました。
モンロー主義は、旧世界を西半球に入れないために境界線を引く、という政治的な考え方です。それを基に発信して、より影響力を出して行こうとしているのがトランプなので、そもそものモンロー主義とはちょっと違うんですけど、これについても、また解説したいと思います。

世界は聖書でできている。アメリカも聖書でできている部分がある。
ということで、これからも国際情勢を見ていきますので、よろしければまたお付き合いください。チャンネル登録もお願いします。また、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

✡.。

引用；新日本聖書刊行会『聖書　新改訳 2017』いのちのことば社．2017